

◆河川部局等との合築

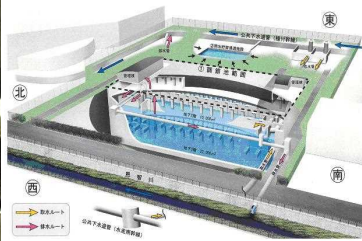
■ 現況と課題

■ 現況

・特定公共下水道宝町処理場跡地を活用し、河川施設である流域調節池とその上部に下水道事業による雨水貯留施設を一体的に整備したもの。（平成19年完成）

■ 課題

- ・財産管理区分の明確化（下水道資産の目的外使用について）
- ・施設の維持管理区分の明確化



■ 計画の考え方や対策検討の経緯

■ 計画の考え方

- ・寝屋川流域における総合治水対策として、河川と下水道の施設分担計画上1/10確率降雨までの処理を下水道が担う。本市では、1/10確率降雨への雨水レベルアップとして、雨水貯留施設を整備する。
- ・さらに、下水道施設の排水能力を上回る降雨に対しては、放流施設以外の内水浸水対策として、河川による流域調節池を整備する。

■ 経緯

- ・下水処理場跡地に下水道による貯留施設を検討
- ・当該集水区内で河川部局が流域調節池の整備候補地を検討していたことから連携した整備を模索
- ・河川による流域調節池と下水道の貯留施設を合築施工

■ 対策に至る比較検討など

- ・合築レイアウトについて、下水道施設としての必要用地及び維持管理区分の観点から一体型・上下2段型・平面並列型の比較検討を行った。

■ 浸水対策の概要

■ 対策の概要

① 下水道施設による対策

・植付排水区における1/10確率降雨までの処理を下水道が担うため、下水道幹線の流下能力を超過する雨水を貯留施設にて貯留する。

・貯留規模は、約1,500m³

② 河川施設による対策

・流域調節池については、当該貯留施設の排水能力（1/10確率降雨）を上回る降雨に対し貯留する。

・また、流域調節池は、深野排水区における下水道施設の排水能力を上回る降雨についても貯留する。

・貯留規模は、約22,000m³

■ 工夫

- ・施設を一体的に整備することにより、経済的に浸水被害の軽減を図る。
- ・植付排水区における貯留については、植付幹線からの取水を可動堰で段階的（下水道と河川の区分）に対応した。
- ・処理場跡地を活用したことで、貯留後の河川排水が容易に行える。
- ・貯留水の排水については、処理場の既存排水施設を活用した。
- ・河川部局と連絡調整を密に行い、連携を図った。

■ 浸水対策の効果

■ 対策の効果

・H30年7月豪雨では、総合治水対策における、下水道施設・流域調節池・遊水地の**3重のブロック**により、浸水被害を軽減した。



○過去の浸水被害(平成元年9月)
 ・総雨量 204.0mm
 ・時間最大雨量 27.5mm
 ◎浸水被害の報告:191件

○平成30年7月豪雨
 ・総雨量 264.0mm
 ・時間最大雨量 28.0mm
 ◎浸水被害の報告:0件

